

令和7年産ソラマメの黄化現象について

令和8年1月
JA山武郡市

1. ウイルス診断結果について

令和7年産で多発した「黄化症状」株について、県農業試験場で5種類のウイルス病の検査を実施しました。

➡**結果：全て陰性**

ウイルス病や他の病気ではありませんでした。



ソラマメの黄化症状

【考えられる原因】

- ① 12月～2月末の乾燥
降雨が少なく、ソラマメの生育が不十分だった。
- ② 3月以降の降雨
3月に入り大量の降雨があり、大雨で根傷みが起きてしまった。生育の不十分さも相まって肥料、水分を吸収できなかった。
- ③ 3月以降の気温上昇
日中の気温上昇によりトンネル内が20℃以上になり、生育が阻害された。

ウイルス病や病気ではなく、生理現象が要因だと考えられます。
以下の対策を行いましょう！

2. 今後の対策について

① 圃場の乾燥対策

ソラマメは湿潤を好む野菜で、乾燥は生育の抑制や収量の低下を招きます。開花期以降は7日～10日間隔でかん水をおこない、莢の肥大や気温の上昇とともに間隔を詰めましょう。一方で、根は酸素要求量が多いため、2～3日滞水すると根腐れを起こします。同時に排水対策も徹底しましょう。

② トンネル被覆と温度管理

トンネルの被覆は1月中下旬に行い10cm程度の穴を50cm間隔であけましょう。保温し過ぎると徒長枝が多くなり、収量低下や倒伏しやすくなります。

※日中のトンネル内温度が20℃以上にならないよう気温の上昇と共に換気穴を増やしましょう！

③ 追肥

3月下旬以降、開花・着莢時期は特に水分や養分を必要とします。以下の時期を目安に追肥を行いましょう。低温時や乾燥している場合は、葉面散布が有効です。

1回目；低節位で蕾が確認できたとき（草勢維持）

2回目；開花最盛期（樹勢維持と欠粒防止）※必要に応じかん水も実施

3回目；小指大の莢ができたころ（肥大促進）

※いずれも窒素成分で2～3kgを目安に施用